

授業科目	NPO 論				単位	1		
履 修	選択	関連資格	保健師		ナンバリング	NU31504J		
開講年次	4	開講時期	後期	該当DP	DP2-1 DP3-2 DP4-3			
担当教員	雪松 直子							
授業概要	<p>在宅介護や地域包括ケアの必要性など、福祉の世界でも「NPO」という存在を意識する機会が増えてきましたが、その組織の特徴や実態、非営利における経営手法についてはまだ体系化が進んでおらず、社会一般の中での認知も低い状況です。</p> <p>本授業においては、ボランティアや趣味的なサークル活動とは異なり、市民が主体でありながら社会の公的サービスを担う事業を推進する NPO の事例を中心に取扱うことで、まずは具体的なイメージを共有し、そこからグループワークでの意見交換等を経て、NPO の本質に迫ります。</p> <p>授業が進むほど教員が解説する講義の割合は減り、演習への取り組みと発表など、学生主体の学びの場に移行する予定です。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NPO の概念と特徴、また営利企業・地縁組織・ボランティア等との違いを説明できる。</li> <li>2. 既存の医療・看護が担う領域と、NPO が担う領域の境界について自分の言葉で説明できる。</li> <li>3. 社会システムを批判的な目で見、様々な社会課題に対して自分の意見を持つことができる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	40	0	0	30	30	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	10			5	10		25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)	10			20	10		40	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)	20			5	10		35	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
NPO の基礎的な概念と特徴を理解し、知識と事例を組み合わせ、他の人に説明することができる。 福祉の世界における NPO の存在意義に自分なりの意見を持ち、言葉にして語る事ができる。				NPO の基礎的な概念と特徴を理解し、知識か事例のどちらかの方法で他の人に説明することができる。 福祉の世界における NPO の存在意義を説明することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	テーマ:オリエンテーション/NPO とは何か 授業の進め方を確認し、NPO 関連の基礎的な前提知識を学ぶ。	講義	なし	100
2	テーマ:NPO の事例/非営利であることの意義 営利と非営利の違いから現場 NPO の運営について学ぶ。	講義 演習(グループ)	なし	100
3	テーマ:福祉の世界で活躍する NPO の事例 福祉 NPO の事例から、取り組む社会課題とその解決策を学ぶ。	講義 演習(グループ)	なし	100
4	テーマ:「悪の秘密結社」に見るビジョンとミッション 「正義」と「悪」の概念を、相対的価値観と視点によって捉え直す。	講義 演習(グループ)	予習:講義で取り扱う教科書の範囲を全て読んで来ること。	100
5	テーマ:福岡の福祉 NPO による特別授業(外部講師) ゲスト講師から、取り組む社会課題への想いや現場の声を聞く。	講義	予習:講義で取り扱う事例組織について、インターネット等で事業内容等を調べてくること。	100
6	テーマ:「世界征服」というイノベーション 社会システムを良く変化させるために必要な、状況と要素を学ぶ。	演習(グループ)	予習:講義で取り扱う教科書の範囲を全て読んで来ること。	100
7	テーマ:参加をするということ 今までの授業のまとめ	演習(全体)	予習:これまでの授業全体を振り返っておく。	100
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	授業の中では、たびたびグループワークの時間を設けます。社会に「必ず正しい答え」というものはありません。常識に縛られずに、自由に自分の意見を発信してください。			
テキスト	『「世界征服」は可能か?』 岡田斗司夫・著 筑摩書房 2007 年 他、適宜プリント等を使用します。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『べてるの家の「非」援助論—そのままがいいと思えるための 25 章 (シリーズ ケアをひらく)』 浦河べてるの家・著 医学書院 2002 年 『安心して絶望できる人生 (生活人新書)』 向谷地生良・著 浦河べてるの家・著 日本放送出版協会 2006 年 『リハビリの夜 (シリーズ ケアをひらく)』 熊谷 晋一郎・著 医学書院 2009 年 『人を助けるとはどういうことか 本当の「協力関係」をつくる 7 つの原則』 エドガー・H・シャイン・著 英治出版 2009 年 『「生きづらさ」を支える本 (言視 BOOKS)』 自立支援センターふるさとの会・著 言視舎 2014 年 『雑誌「ヨレヨレ」』 宅老所よりあい 『DVD 見る当事者研究シリーズ Case1「水飲みが止まらない!」』 浦河べてるの家 2014 年			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	自分の日常で「これはおかしい」や「こうだったら良いのに」と思うことにアンテナを張り巡らせてください。社会の中で「普通」「常識」「当たり前」と呼ばれる事を疑ってみてください。そのうえで、さらに、疑問を疑問のままに終わらせず、「自分がアクションできる事はあるか?」というところまで考えるクセをつけておいてください。			
達成度評価に関するコメント	本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、知識の量や回答の優秀性よりも、「社会と自分のつながりを想像する力」「自分の意見を持ち言語化する力」の 2 点を重視します。			

